

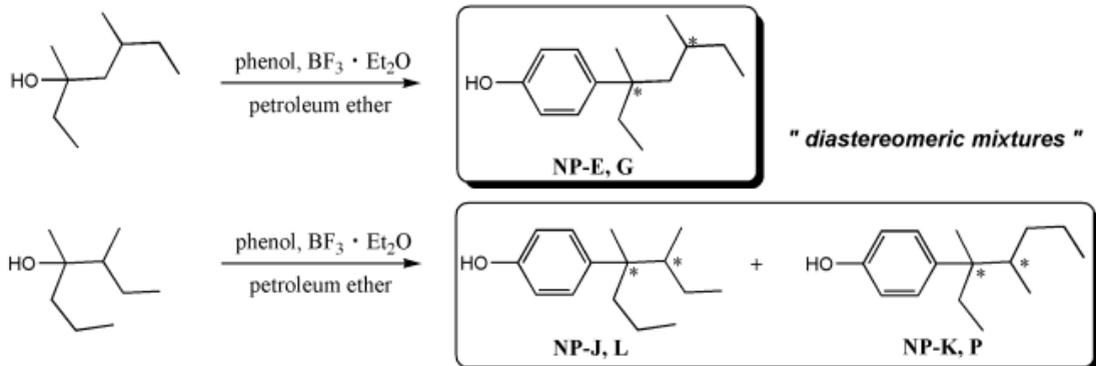
# 26P-am251

## 4-ノニルフェノールの異性体別合成に関する研究

○内山 武人<sup>1</sup>, 牧野 三津子<sup>2</sup>, 齋藤 弘明<sup>1</sup>, 片瀬 隆雄<sup>3</sup>, 藤本 康雄<sup>2</sup> (<sup>1</sup>日本大薬, <sup>2</sup>日本大文理, <sup>3</sup>日本大生物資)

【目的】これまでに我々は、内分泌攪乱物質といわれている 4-ノニルフェノールを構造異性体別に合成してきた。今回、シリカゲルカラムクロマトグラフィーでは分離が困難である合成ジアステレオマー混合物 NP-E, G および NP-J, K, L, P の合成および HPLC を用いた分離法について検討をおこなったので報告する。

【方法】石油エーテル中  $\text{BF}_3 \cdot \text{Et}_2\text{O}$  存在下、ノニルアルコールとフェノールの Friedel-Crafts アルキル化反応により得られる NP-E, G および NP-J, K, L, P について HPLC 分析をおこない最も分離に有効なカラムを探索した。



【結果・考察】各種カラムを用いて検討をおこなった結果、NP-E, G の分離には CHIRAL  $\beta$ -CD BR (YMC 社) が、NP-J, K, L, P には HyperCarb (Thermo 社) がセミ分離レベル (~5 mg) で最も良い分離結果を与えた。その他の 4-ノニルフェノール異性体についての合成および分離・精製法についても併せて報告する。